

令和 5 年 11 月 10 日
弥富市教育委員会

弥富市小学校再編整備方針について

令和 5 年 11 月 10 日（金）に開催した弥富市定例教育委員会において、「弥富市小学校再編整備方針」を決定しました。

この再編整備方針に基づき、小規模小学校 4 校（大藤小学校、栄南小学校、十四山東部小学校、十四山西部小学校）を再編し、再編校を現在の十四山西部小学校の位置に校名を新たにし、令和 10 年 4 月に開校します。

今後は、速やかに児童・保護者等に対し、より詳細な情報を整理して周知するとともに、4 校それぞれの特色を生かしつつ、魅力的な再編校の実現に向け、校舎の増築及び既存建物等の施設整備について着実・迅速に進めていきます。

記

1 再編整備方針決定の背景

本市では「弥富市小中学校未来構想」（令和 5 年 2 月策定）により、本市の小中学校が目指す教育方針「生きる力」の育成を実現するために、令和 10 年 4 月に小規模小学校 4 校を 1 校に再編する方針を示しました。

この度、この未来構想に基づき、再編校の設置場所や施設整備の内容等の基本方針について、「弥富市小学校再編整備方針」として決定しました。

2 整備方針の具体的内容

- これからの時代をたくましく生きる力を育む教育活動を展開します。
- 施設整備は、魅力的な再編校とするため、校舎の増築及び既存建物等のリニューアル工事を実施します。
 - ・ 将来に向け高機能で多様な教育環境の整備
 - ・ 地域と学校の協働関係を円滑に育める施設整備
 - ・ 安全安心な施設整備
- 校区が広くなることから、一部にスクールバス通学を導入します。

3 その他

- 再編に向けた様々な事項については、児童や保護者、教職員や地域住民等を構成員とした再編委員会及び検討部会を速やかに設置するよう調整していきます。
- 校舎の増築及び既存建物等のリニューアル工事等の施設整備を着実に推進するため、12 月議会に耐力度調査等の設計への事前調査事業に係る補正予算を上程します。

4 これまでの経緯

平成 28 年 3 月 令和 2 年 3 月	弥富市公共施設等総合管理計画の策定 弥富市公共施設再配置計画の策定
令和元年 5 月、9 月	子どもの教育環境に関するアンケート実施 (十四山中学校、4 小学校、大藤・栄南・日の出・十四山育所、弥富はばたき幼稚園)
令和 3 年 10 月	子どもの教育環境に関する保護者・地域意見交換会 (R3.10-R4.6)
令和 4 年 10 月	弥富市小中学校未来構想(案)の地区役員等との意見交換会
令和 4 年 11 月 令和 5 年 1 月	パブリックコメント (10/11~11/30) 生徒・保護者等への説明会 (2 回) 市民説明会 (2 回)
令和 5 年 2 月 令和 5 年 4 月 令和 5 年 7 月	弥富市小中学校未来構想の決定 弥富市小学校施設整備方針(案)の地区役員等との意見交換会 (4 月~6 月) 保護者向け説明会 (7/15、7/16、7/30、8/5)
令和 5 年 9 月 令和 5 年 11 月	一般向け説明会 (7/16、7/29) パブリックコメント (9/14~10/30) 定例教育委員会にて弥富市小学校施設整備方針の決定・弥富市総合教育会議 (11/10) 記者発表 (11/21)

1 再編基本方針（弥富市小中学校未来構想）

～小学校再編の基本方針～

大藤・栄南・十四山東部・十四山西部小学校の4校を再編

小規模校4校それぞれの特色を活かしつつ魅力的な再編校を設立することを前提にする。

【小学校再編の必要性】

現状、大藤・栄南・十四山東部・十四山西部小学校は、学年1クラスの小規模校であり、将来の推移では、さらに地区の人口、児童数も減少傾向となっている。再編により「各学年2クラス以上」を適正規模とし、様々な考えに触れ、お互い学び合い、切磋琢磨する中で学ぶことができる教育環境を整え、児童生徒の「生きる力」を育成する。

【日の出小学校と4校で再編】

日の出小学校と大藤・栄南・十四山東部・十四山西部小学校の4校を現状の児童数で再編した場合、各学年4～5クラスとなってしまう。令和10年度での児童数の推移では、大藤・栄南・十四山東部・十四山西部小学校の4校は、減少傾向ではあるが、日の出小学校の児童数はあまり減少せず、各学年4クラス以上となる。また、現在の基準では5・6学年は、1クラス40人以下であるが、将来的には1クラス35人以下が基準となることから、さらにクラス数が増えてしまい、法令上の学校規模の標準学級数から大きく逸脱してしまう結果となった。

【小規模校4校で再編】

大藤・栄南・十四山東部・十四山西部小学校の4校を現状の児童数で再編した場合、各学年2～3クラスとなる。令和10年度での児童数の推移では、4校とも減少傾向であるが、全学年2クラスとなり、法令上の学校規模の標準学級数において「適正規模」を確保できる。

2 再編校の設置場所

～小学校再編整備方針①～

再編校設置場所は十四山西部小学校とする。また、校区が広くなることから通学距離が長くなるため、通学の安全確保を最優先し、スクールバスを導入する。

＜検討＞

【公共施設保有量の推移】

公共施設は、防災拠点であるとともに、地域のコミュニティの場所であるべきと考える。

「小中学校の再編」及び「公共施設再配置計画」を基に、各小規模小学校区の住民一人当たりの公共施設保有量を算出すると、十四山地区 2.76 m²/人、大藤栄南地区 3.72 m²/人となり、十四山地区の方が少ない結果となった。また、「弥富市小中学校未来構想」において令和7年度を目途に十四山中中学校

は弥富中学校に編入することになり、小学校再編校の設置場所が十四山地区以外になった場合、十四山地区には学校が一つもなくなってしまう。

※現小学校及び将来の再編校の面積は考慮しない。また、大藤・栄南地区の火葬場及び一般廃棄物処理場の面積も考慮しない。

【児童居住地の分布】

再編時期（令和10年度）における再編対象児童の居住地分布を基に、各小規模小学校4校の半径1.5キロ圏内に居住する児童数を検討した結果、十四山西部小学校 96 人、十四山東部小学校 91 人、大藤小学校 74 人、栄南小学校 65 人という順で、十四山西部小学校が一番多い結果となった。

【子育て及び教育文化等の機能との連携】

「弥富市立地適正化計画」におけるコンパクト・プラス・ネットワークの考え方を基に、中心市街地（都市機能誘導区域）に近い方が、学校機能と子育て及び教育文化等の機能との連携がしやすくなる。

【将来的な負担】

「弥富市小中学校未来構想」による再編時期の目途は令和10年度となっており、新たに用地を購入して、再編校を整備するのはスケジュール的に困難となる。また、将来的な住民負担（財政的な負担）と少子化に伴う人口減少（人口減少率）等の観点を踏まえると、用地を購入して新たな校舎を建設することは選択肢とするべきではなく、既存建物を利活用し、長寿命化及び防災拠点となるべく大規模修繕工事等を前提に考えることが望ましい。

3 再編校の施設整備

～小学校再編整備方針②～

魅力的な再編校とするために、校舎の増築及び既存建物等のリニューアル工事を実施する。

＜検討＞

【再編校における施設整備】

- ・教室の木質化等暖かみのある空間づくり
- ・多様な教育環境の創出
- ・保護者及び地域に開かれたスペースの整備
- ・児童が避難する津波高潮避難場所の確保
- ・スクールバス導入に伴うターミナルの設置

【結果公表】

弥富市小学校再編整備方針（案）に対するパブリックコメントの実施結果については、以下のとおりです。

案件名	弥富市小学校再編整備方針（案）		
募集期間	令和5年9月14日（木）～令和5年10月13日（金）		
担当課	教育部 学校教育課		
募集結果の概要	弥富市小学校再編整備方針（案）に対する意見を募集した結果、5人の方から20件の意見が提出されました。		
意見提出数	持参	4人	19件
	郵送	0人	0件
	電子メール	1人	1件
	ファクシミリ	0人	0件
	合計	5人	20件

提出された意見と市の考え方

NO	意見・提言の概要	教育委員会の考え方
1	市の再編案に代わる別案を提案する。 ・サテライト方式 A 案 小学校統合案 <サテライト方式> ※通学者にとって本部から地理的に離れた場所に設置されたキャンパス。 ・サテライト方式で統合（原則 徒歩通学） ・校長は4校兼任で各キャンパス間の合同授業・運動会・学習発表会・遠足・部活動等の運営調整を行う。 ・本校は設けず、校長は1週間ごとに各キャンパスを移動する。 ・副校長は各キャンパス専任で各学校の特色を生かした学校運営を行う。（校長の所在地を仮の本校とする。） ・従来より校長が3人減るが、その分専門性の高い分野の先生を配置する。 ・学級担任以外の教職員は4キャンパス兼任とする。 ・低学年（1年生～3年生）は入学式・運動会・学習発表会・遠足等は4校合同で実施する。 ・ICT（情報通信技術）を利用して、どこにいても質の高い授業を保証する。（オンライン授業やリモート授業の活用） ・高学年（4年生～6年生）は週の後半の午後に合同授業・部活動を行う。 学校間の移動は、学校で一斉にスクールバスに乗車するのでバスも3台で済み、効率が良い。 ・クラス替えの代わりにキャンパス間の移籍は、本人の希望を尊重する。 ・少人数教育で、徹底して基礎教育を行い、落ちこぼれをなくする。 ・個人指導が出来るので、語学教育、理数教育が大規模校より行いやすい。	多数のご提案をいただき、ありがとうございます。小学校では、学業のみではなく、心の成長の時期でもあります。本市が目指す教育方針である生きる力を身につけさせるための、子ども同士、クラス間などで切磋琢磨できる環境、また、子ども同士が互いに生活する中で他者との直接的な心の触れ合う意見交換ができる環境を整備するためには、子どもたちが同じ学校の中で生活していくことが必要だと考え、今回の再編整備方針を策定しました。

	・空き教室を利用して、児童クラブ、学習塾・ピアノ教室等を誘致する。 (低家賃で民間事業者に運営を任せ、送迎も行ってもらい、働いている親の負担を減らす) ・校舎を残せば、災害時の避難所・コミュニティ施設として引き続き利用できる。 ・小学校が無くなる地域は、急速に子育て世代がいなくなり老人世帯ばかりになって、重大な社会問題となる。 (子育て世代は弥富市以外の、子育てに都合のよい地域に移り住む可能性が高い)	
2	市の再編案に代わる別案を提案する。 ・旧鍋田中学校（現愛知黎明高校）、十四山中学校跡地 B 案 小学校統合案 <旧鍋田中学校・十四山中学校 跡地> 大藤小 旧鍋田中学校跡地 栄南小 合同授業 合同行事 十西小 十四山中学校跡地 十東小 ・旧鍋田中学校への移転は愛知黎明高校と調整が必要。 (愛知黎明高校が海翔高校跡地へ移転することが条件) ・十四山中学校への統合は階段の改造（蹴上 180⇒160）が必要であるが、比較的低コストで改造が可能。（新築案も検討が必要） ・新設学校間でも連携して合同授業、合同行事を行う。 ・廃止された学校跡地は、市街化調整区域に残された貴重な宅地であるので地域の発展の為に施設・交通網の再整備の為に場所として使用する。 ・下層部にショッピングセンター、上層階に集合住宅を設け、津波避難所機能を持った建物とする。 ・地域で誘致要望が高い、クリニック、学習塾等にテナントで入ってもらう。進出企業・事業者には固定資産税の減免等を行い優遇する。	ご提案いただきありがとうございます。愛知黎明高校の移転及び、中高等学校を小学校基準への改修（階段・プール等）十四山中学校については、体育館老朽化（建て替え必要）等様々な問題があります。市では、「No.1」で回答させていただいた子どもたちの教育環境及び再編時期、将来負担を考慮して再編整備方針を策定しました。 また、学校跡地の利用についてのご提案ありがとうございます。いただきましたご意見も含め、今後検討していきます。
3	9 月 16 日の説明会の質疑応答の要旨と、問題になった十四山西部小学校校舎の杭についての参考資料を添付する。 深度 柱状図 支持杭（概ね、3 階建て以上で、重量度が高い建物） 摩擦杭（概ね、2 階建てまでの軽量な建物） 0 5 10 15 20 25 30 35 40 45 50 55 60 65 70 75 80 85 90 95 100 105 110 115 120 125 130 135 140 145 150 155 160 165 170 175 180 185 190 195 200 205 210 215 220 225 230 235 240 245 250 255 260 265 270 275 280 285 290 295 300 305 310 315 320 325 330 335 340 345 350 355 360 365 370 375 380 385 390 395 400 405 410 415 420 425 430 435 440 445 450 455 460 465 470 475 480 485 490 495 500 505 510 515 520 525 530 535 540 545 550 555 560 565 570 575 580 585 590 595 600 605 610 615 620 625 630 635 640 645 650 655 660 665 670 675 680 685 690 695 700 705 710 715 720 725 730 735 740 745 750 755 760 765 770 775 780 785 790 795 800 805 810 815 820 825 830 835 840 845 850 855 860 865 870 875 880 885 890 895 900 905 910 915 920 925 930 935 940 945 950 955 960 965 970 975 980 985 990 995 1000	十四山西部小学校の杭について、耐震補強時の設計会社に確認をしたところ、弥富市内の地盤では、短い摩擦杭でも長い支持杭でも液状化現象による被害は想定されます。十四山西部小学校は、耐震補強が施され、所要の耐震性能が確保された建物であり、建物自体の倒壊または崩壊する危険性は低い、という回答をいただいております。いずれにしましても、本格的に工事に取り掛かる前に、建物の耐力度調査等により安全を確認してまいります。

4	十四山西部小学校で児童が生活している中で工事を行うことは、児童にとって負荷が高い。新規に土地を購入する必要がなく、学校を建てることのできる十四山中学校跡地へ新設を希望する。	ご意見ありがとうございます。新校舎棟を先に建設し、そちらで授業を行ないつつ既存の校舎の改修を行うことを想定しています。工事中の音や振動への対策は、防音パネル等を使うなど、最大限に配慮してまいります。なお、十四山中学校への新設につきましては、「No.2」で回答させていただきました。
5	再編により不要になった小学校の跡地が売却となった場合、その収入は新しい学校の為に使って欲しい。他の事業に使うべきではなく、児童のために使われるべきである。	跡地利用についてのご意見ありがとうございます。跡地利用につきましては、全庁的に各課横断的な組織の中で検討をしています。 地域の皆様のご意見をいただきながら進めてまいります。
6	児童数の少ない小規模校だからこそ、外国籍のフォローができていない面もある。今後、増える外国籍の児童生徒に対しての支援策について、市の考えを示して欲しい。	外国籍児童生徒についてのご意見・ご質問ありがとうございます。現在、本市では日本語指導員を配置し、初期の日本語指導に努めています。 引き続き外国籍の児童生徒に対し支援してまいります。
7	今後のスケジュールでパブリックコメントの実施から11月の再編整備方針の決定、公表までの期間があまりにも短い。今回のパブリックコメントについて真剣に検討する気はあるのか。	スケジュールについてのご意見ありがとうございます。パブリックコメントに加え、教育委員会担当者が出向く「出張説明会」も行っております。いただきましたご意見につきましては、教育委員会のみならず市役所内の関係部署とも検討しております。
8	小学校再編後、スクールバスに乗り遅れた場合は考えているのか。送迎ができる大人が家庭にいないと、その児童は小学校に通うことができない。	スクールバスの運用方法につきましては、現在検討中です。今回のご意見も課題として検討を進めてまいります。ありがとうございます。

9	地域に小学校を残す意義として、①徒歩通学ができる、②地域の防災拠点として必要、③地域社会の住民サービスの維持、④地域の子育て世代の流出抑止がある。	地域に小学校を残す意義についてご意見ありがとうございます。今回お示した再編整備方針は、子どもたちの教育を最優先に、再編後の地域コミュニティのあり方について検討してまいりました。いただきましたご意見も含め、今後も検討してまいります。
10	少人数教育は目が届きやすく、メリットと言える。小学校再編で児童数が増えれば、各種問題が解決する、というのは少々早計ではないか。	少人数教育についてのご意見ありがとうございます。これまで同様支援員等を配置し、きめ細かな指導に努めてまいります。
11	資料「弥富市小学校再編整備方針（案）」31頁、32頁で、再編によって教師間の連携が可能になる、という趣旨が書かれているが、今の小学校のままで各小学校間の教員同士の連携は（インターネットを活用することで）図れるように感じられた。	学校運営に関するご意見ありがとうございます。この度の小学校の再編は子どもたちの教育環境を最優先に考えてまいりました。オンラインを活用した学校間での授業は可能ではありますが、子どもたちを多くの目で見守り、支援・指導するためには、教職員の連携体制が肝要だと考えます。複数クラスになると、同学年の担任同士で相談しながら、授業の準備や学年行事の準備ができます。さらに、交換授業が可能となり、それぞれの専門性を活かすこともできます。また、教員一人が抱える校務分掌を分担することが可能となります。 教職員間の連携が充実することで、教員にゆとりが生まれ、子どもと向き合う時間が確保できると考えます。
12	小規模小学校で先進教育を行えば、小学校の強みとして「この小学校に通わせたい」と考える保護者も出てくる可能性もある。市の教育委員会で先進教育モデル校として立候補することを是非検討してください。	貴重なご意見ありがとうございます。他に誇れる魅力的な再編校となるよう、今後もしっかりと検討させていただきます。

1 3	学校の再編と同時に、市街化調整区域についても真剣に考えていただきたい。この区域に新たに学校を建てても、家が建てられなければ子どもの数が増えないので、いずれ1クラスになって意味がない。	市街地調整区域を市街化区域等に変更することは、法令や都市計画マスタープランなど様々な要件があります。いただいたご意見を始め、市街化調整区域のあり方については、今後も引き続き検討してまいります。ご意見ありがとうございます。
1 4	合併の校舎はすべて新しいものにして欲しい。新しい校舎だと新校舎の学区に転校してきそうだから、少しだけ人数が増えそう。	貴重なご意見ありがとうございます。魅力的な再編校となるように整備していきます。
1 5	行事の駐車場は全員分ありますか。	駐車場についてのご質問をいただき、ありがとうございます。駐車場は、現在より多くの駐車場を確保できるように考えています。
1 6	家からスクールバス停までは歩きなのか。家まで迎えに来てくれるのか。	スクールバスについてのご質問をいただき、ありがとうございます。エリアごとにバス停を設置し、そこまでは徒歩となります。
1 7	図書館開放とのことですが、警備体制は大丈夫ですか。	図書館についてのご質問をいただき、ありがとうございます。図書室開放につきましては、今後、セキュリティのあり方と共に運用方法を検討してまいります。
1 8	合併前にバスの乗り方、通学時間、バス停から学校までの道のりを確認して、知らせて欲しい。	貴重なご意見ありがとうございます。スクールバスについては、今後、保護者も交えて考え、情報提供してまいります。
1 9	4校の下校時間が違うと思うが、合併後はどうなりますか。	下校時間のご質問をいただき、ありがとうございます。4校が1校になりますので、新校の時間割を作成することになります。

20	合併に該当する子どもは、まだ小さい子ばかりなので、保育所や小学校の行事の時に説明会などを開いて欲しい。託児所や遊べるスペースがあれば説明会に参加しやすい。	参加しやすい説明会へのご意見ありがとうございます。説明会の開催方法について、引き続き検討させていただきます。
----	---	--

弥富市



小学校再編整備方針



令和5年11月

弥富市教育委員会

目次

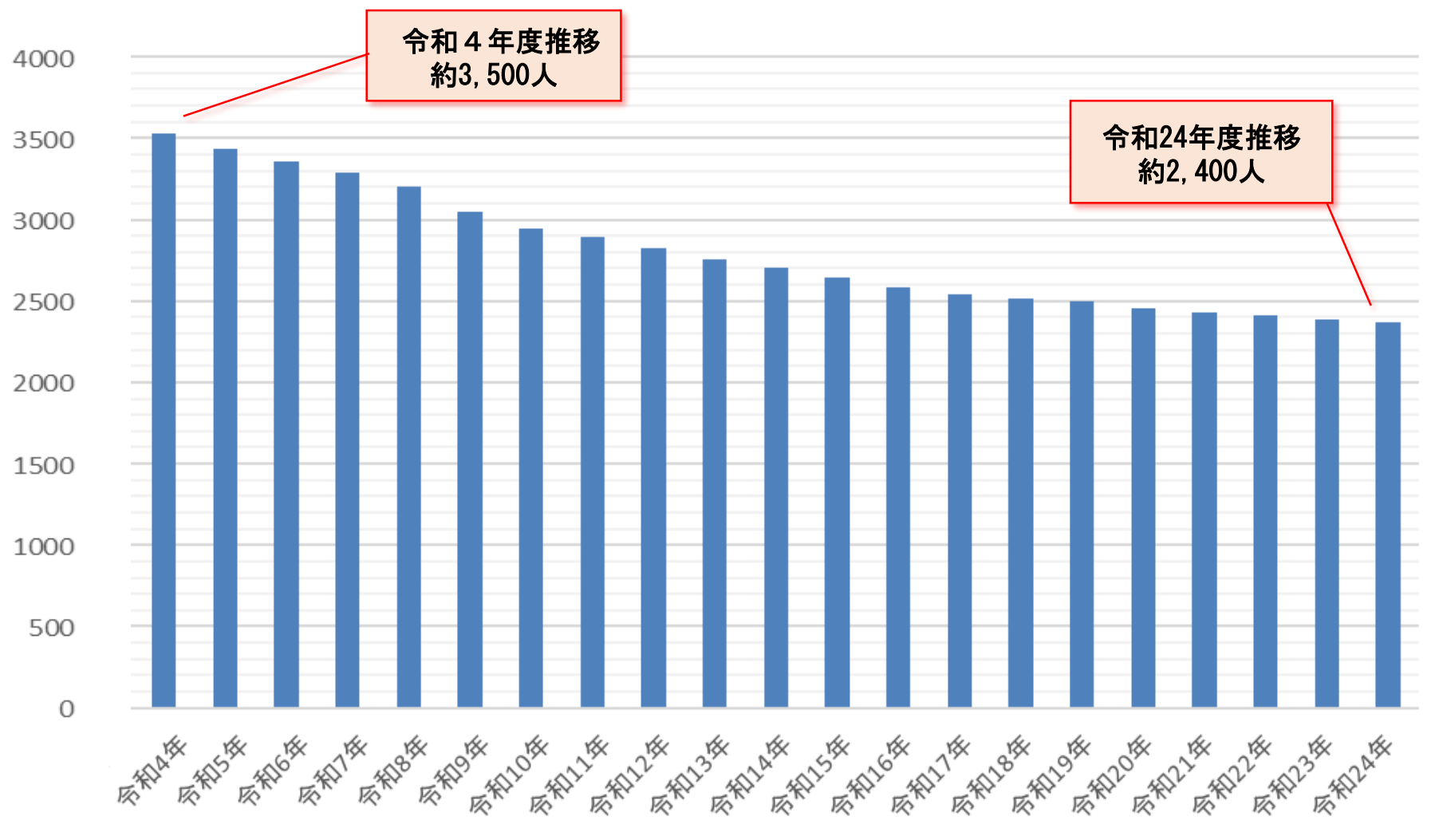
- 1 小学校再編の背景
- 2 小学校再編基本方針（小中学校未来構想より）
- 3 小学校再編整備方針
 - 3-1 再編校の設置場所
 - 3-2 再編校の施設整備
 - 3-3 再編校の目指す教育環境
- 4 今後の検討事項
- 5 今後のスケジュール



1 小学校再編の背景

●弥富市における児童・生徒数の推移

弥富市でも小中学校の児童生徒数が減少し続けていくことが予測されます。



1 小学校再編の背景

●小学校8校の児童数推移

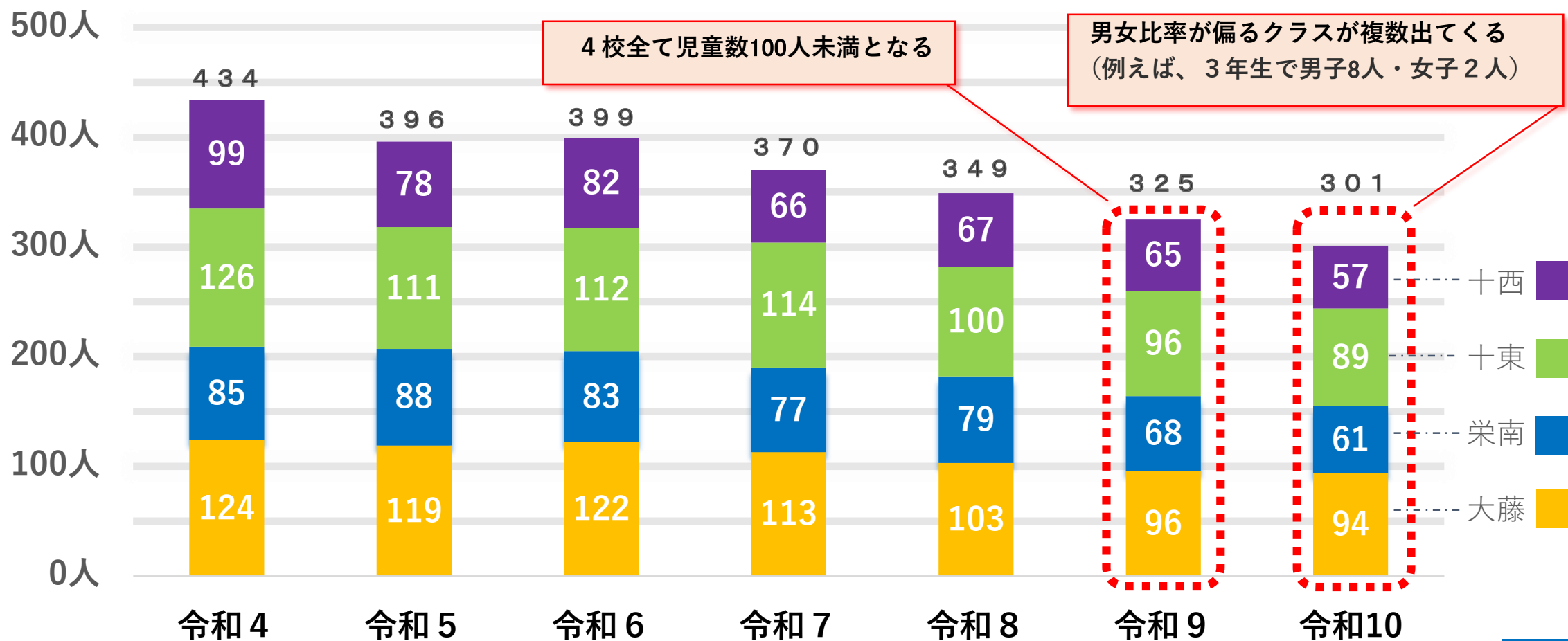
年度	令和4	令和5	令和6	令和7	令和8	令和9	令和10	令和4年と令和10年の比
弥生	530	523	505	496	493	502	489	－7.7%
桜	431	388	381	384	379	380	387	－10.2%
大藤	124	119	122	113	103	96	94	－24.2%
栄南	85	88	83	77	79	68	61	－28.2%
白鳥	254	260	251	245	242	217	230	－9.4%
十四山東部	126	111	112	114	100	96	89	－29.4%
十四山西部	99	78	82	66	67	65	57	－42.4%
日の出	529	522	515	500	492	484	495	－6.4%
計	2,178	2,089	2,051	1,995	1,955	1,908	1,902	－12.7%

(単位：人)

1 小学校再編の背景

●小規模小学校における児童数の推移

弥富市の小規模小学校4校において、現在各学年1クラスとなっており、さらに児童数が減少し続け、5年後には各学校100人に満たない状況となります。



さらに、男女比率が偏るクラスが複数出てきます。

1 小学校再編の背景

●小規模小学校男女別児童数

●大藤小学校

(単位：人)

	年度	令和4	令和10	令和10 学年別					
				6年	5年	4年	3年	2年	1年
	男子	64	50	5	11	8	9	9	8
	女子	60	44	15	10	7	4	5	3
	合計	124	94	20	21	15	13	14	11

●十四山東部小学校

(単位：人)

	年度	令和4	令和10	令和10 学年別					
				6年	5年	4年	3年	2年	1年
	男子	60	43	7	6	9	8	8	5
	女子	66	46	11	13	5	2	10	5
	合計	126	89	18	19	14	10	18	10

●栄南小学校

(単位：人)

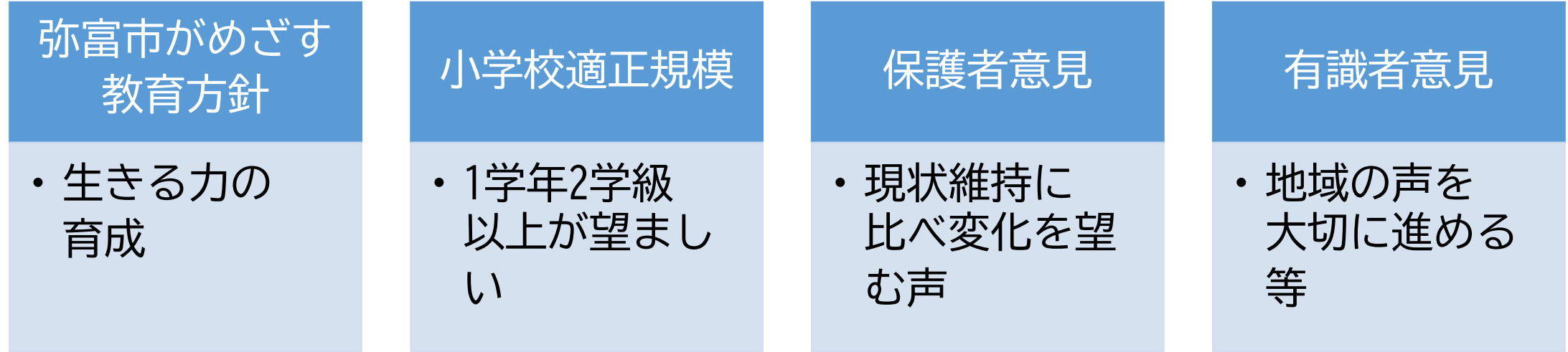
	年度	令和4	令和10	令和10 学年別					
				6年	5年	4年	3年	2年	1年
	男子	38	31	9	7	6	4	3	2
	女子	47	30	5	2	7	6	6	4
	合計	85	61	14	9	13	10	9	6

●十四山西部小学校

(単位：人)

	年度	令和4	令和10	令和10 学年別					
				6年	5年	4年	3年	2年	1年
	男子	46	25	2	8	0	5	5	5
	女子	53	32	5	6	6	6	3	6
	合計	99	57	7	14	6	11	8	11

2 再編基本方針（小中学校未来構想より）



【小学校再編基本方針】

令和10年4月

大藤、栄南、十四山東部、十四山西部小学校を再編

3 小学校再編整備方針

3-1 再編校の設置場所

- ・ 再編校選定の検討1 各小学校区の公共施設保有量
- ・ 再編校選定の検討2 子育て及び教育文化等の機能との連携について
- ・ 再編校選定の検討3 児童居住地分布
- ・ 再編校選定の検討4 将来負担等について



3-2 再編校の施設整備

- ・ 将来に向け高機能で多様な教育環境の整備
- ・ 地域と学校の協働関係を円滑にはぐくめる施設整備
- ・ 安全安心な施設整備



3-3 再編校の目指す教育環境

- ・ これからの時代に求められる教育
- ・ 不安解消につながる取組

3 小学校再編整備方針

3-1 再編校の設置場所 再編校選定の検討1

●各小学校区の公共施設保有量

「学校」は、「子どもたちの学びの場」だけではなく、地域においてさまざまな役割を担っているので、他の公共施設も含めた総合的な視点が必要となる。



3 小学校再編整備方針

●公共施設保有量 内訳

【大藤小学校区】

公共施設名	面積 (㎡)	施設面積 参入
弥富中学校	11,380	○
大藤保育所	1,137	○
大藤児童館	426	○
大藤小学校	4,415	算入せず
鍋田支所	394	算入せず
農村環境改善センター	859	算入せず
合 計	18,611	
積算した保有公共施設 面積（○を積算）	12,943	

【栄南小学校区】

公共施設名	面積 (㎡)	施設面積 参入
南部コミュニティセンター	2,729	○
栄南保育所	907	○
栄南児童館	377	○
のびのび園	1,072	○
いこいの里	1,905	○
南部地区防災センター	1,049	○
栄南小学校	5,444	算入せず
火葬場	1,521	算入せず
一般廃棄物処理場	544	算入せず
合 計	15,548	
積算した保有公共施設面積 （○を積算）	8,039	

3 小学校再編整備方針

●公共施設保有量 内訳

【十四山東部小学校区】

公共施設名	面積 (㎡)	施設面積 参入
十四山総合福祉センター	2,551	○
十四山スポーツセンター	4,750	○
東部児童館	777	○
十四山支所	4,042	○
十四山中学校	6,382	算入せず
十四山東部小学校	4,249	算入せず
旧十四山産業会館	227	算入せず
合 計	22,978	
積算した保有公共施設 面積（○を積算）	12,120	

【十四山西部小学校区】

公共施設名	面積 (㎡)	施設面積 参入
十四山保育所	1,789	○
西部児童クラブ	226	○
十四山西部小学校	3,626	算入せず
合 計	5,641	
積算した保有公共施設面積 （○を積算）	2,015	

3 小学校再編整備方針

3-1 再編校の設置場所 再編校選定の検討1

●各小学校区の一人当たり公共施設保有量

学 校 区	学区人口（人）	公共施設面積 (㎡)	1人当たり面積 (㎡/人)	小学校を算入し た面積 (㎡/人)
大藤小学校区	2,903	12,943	4.46	5.98
栄南小学校区	2,726	8,039	3.00	4.95
十四山東部小学校区	2,966	12,120	4.09	5.52
十四山西部小学校区	2,153	2,015	0.96	2.62

※公共施設保有量の積算には、再編対象校、火葬場、一般廃棄物処理場、
統廃合予定の鍋田支所、農村環境改善センター、旧十四山産業会館を除く

3 小学校再編整備方針

3-1 再編校の設置場所 再編校選定の検討2

●子育て及び教育文化等の機能との連携について

「弥富市立地適正化計画」におけるコンパクト・プラス・ネットワークの考え方を基に、**中心市街地（都市機能誘導区域）に近い方**が、学校機能と子育て及び教育文化等の機能との連携がしやすくなる。



児童館





3 小学校再編整備方針

3-1 再編校の設置場所 再編校選定の検討2

●子育て及び教育文化等の機能との連携について

3 小学校再編整備方針

3-1 再編校の設置場所 再編校選定の検討3

●児童居住地分布

学区が広くなる→スクールバスは必須

- ・学校の近くにどれだけの児童が住んでいるか
(遠方から通う子がどれだけいるか) を考慮する必要がある



3 小学校再編整備方針

3-1 再編校の設置場所 再編校選定の検討3

●児童居住地分布

再編時期（令和10年度）における再編対象児童の居住地分布をもとに、
各小規模小学校4校の半径1.5キロ圏内に居住する児童数

学校名（児童数（人））	1.5km圏内 児童数合 計（人）	内 訳（人）			
		大藤小 学区	栄南小 学区	十四山東 部小学区	十四山西 部小学区
大藤小学校（94）	74	66	1	7	0
栄南小学校（61）	65	20	45	0	0
十四山東部小学校（89）	91	0	0	79	12
十四山西部小学校（57）	96	13	0	31	52

3 小学校再編整備方針

3-1 再編校の設置場所 再編校選定の検討4

●将来負担等について

- ・ 将来的な住民負担（財政的な負担）考慮
- ・ 少子化に伴う人口減少（人口減少率）等の観点を考慮
- ・ 新たに用地を購入して、再編校を整備するのはスケジュール的に困難



用地を購入して新たな校舎を建設することは選択肢とするべきではなく、**既存建物を利活用**し、長寿命化及び防災拠点となるべく大規模修繕工事等を前提に考えることが望ましい。

3 小学校再編整備方針

●各設置候補場所の将来負担比較

設置候補場所	敷地面積(m ²)	校舎	体育館	改修費用の目安 (億円)
大藤小学校	16,712	長寿＋増築	————	8.7
栄南小学校	16,987	長寿＋増築	————	8.8
十四山東部小学校	23,973	長寿＋増築	新築	12.4
十四山西部小学校	21,108	長寿＋増築	————	8.7
日の出小学校	26,946	増築	————	3.7
十四山中学校	29,216	新築	新築	22.0

3 小学校再編整備方針

●各設置候補場所の課題

再編校の位置	課 題
大藤小学校	・ 北西棟校舎の老朽化 ・ 校舎増築後にグラウンドが狭くなる ・ 学校敷地接している道路が狭い ・ バスターミナルが別敷地
栄南小学校	・ 校舎増築後にグラウンドが狭くなる ・ 屋上避難場所が未設置 ・ バスターミナルが別敷地
十四山東部小学校	・ 講堂が体育館としては狭く老朽化 ・ 屋上避難場所が未設置 ・ 北校舎の老朽化 ・ 北校舎1階が児童クラブ
十四山西部小学校	・ 屋上避難場所が未設置
日の出小学校	・ 1学年が4から5クラスの大きな学校となる ・ 増築が必要となる
十四山中学校	・ 体育館の老朽化

3 小学校再編整備方針

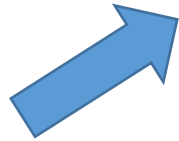
●再編校の設置場所 まとめ

公共施設保有量



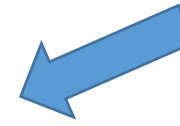
十四山西部小学校が適している

十四山西部小学校が適している



児童居住地分布

子育て及び教育文化等の機能との連携



大藤小・十四山西部小学校が適している

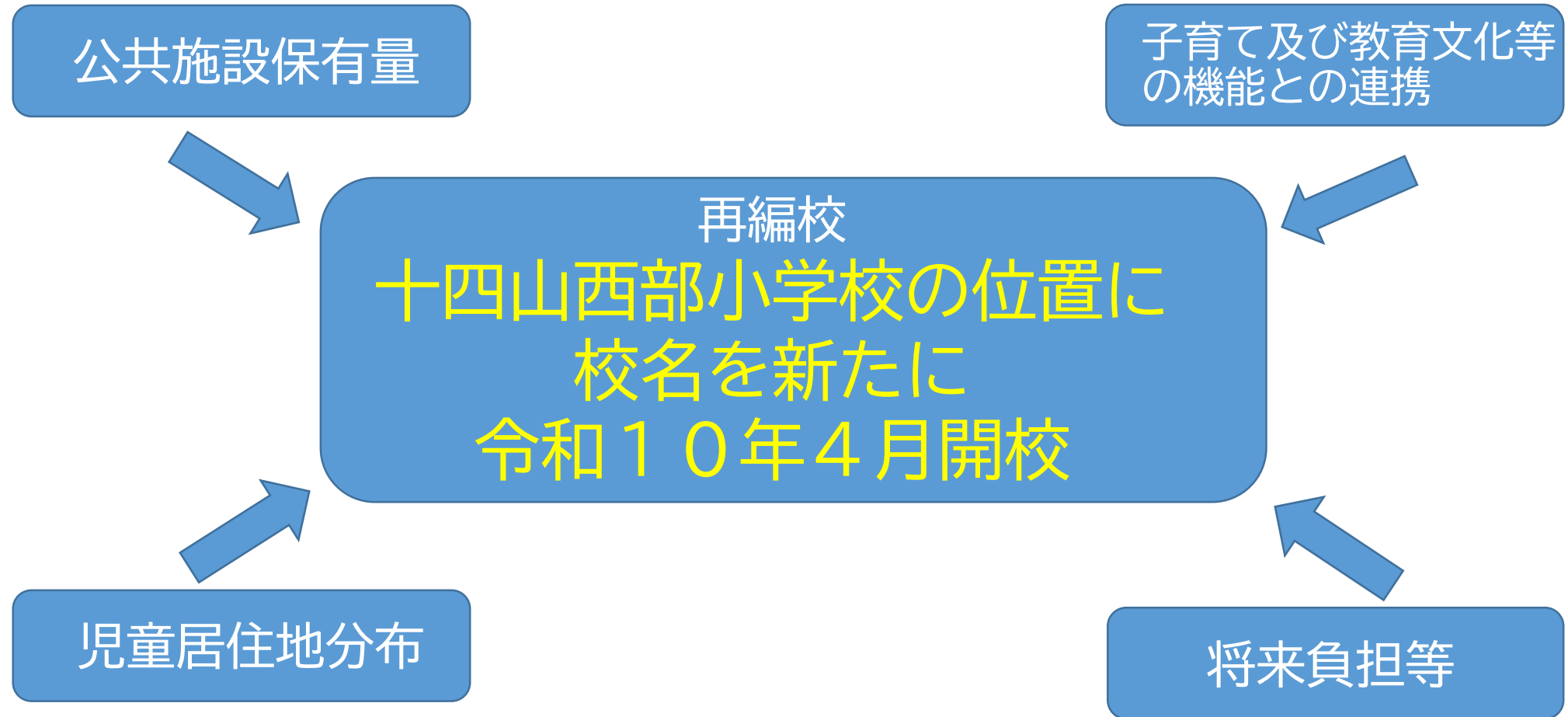
大藤小・栄南小・十四山西部小学校が適している



将来負担等

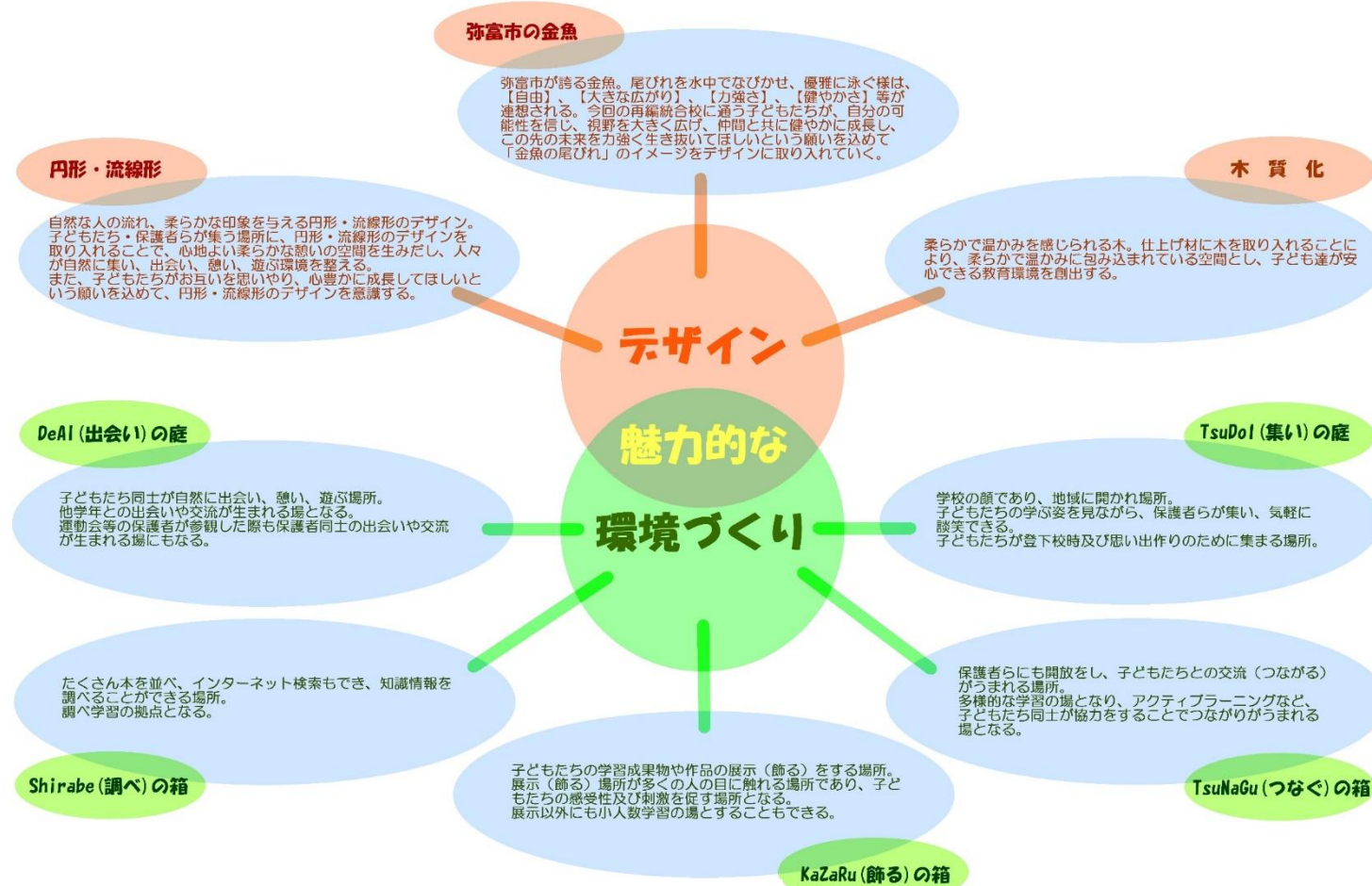
3 小学校再編整備方針

●再編校の設置場所 まとめ



3 小学校再編整備方針

3-2 再編校の施設整備 魅力的な再編校の実現に向けて



3 小学校再編整備方針

3-2 再編校の施設整備

魅力的な再編校の実現に向けて

●将来に向け高機能で多様な教育環境の整備

- ・教室の木質化等暖かみのある空間と多様な経験と思い出づくりができる空間の整備
- ・アクティブラーニングなど多様な学習の場を提供



< 新築校舎 >



< 既存校舎 (改修) >

3 小学校再編整備方針

3-2 再編校の施設整備

魅力的な再編校の実現に向けて

- 地域と学校の協働関係を円滑に育める施設整備
 - ・ 保護者及び地域に開かれたスペースの整備



(新築校舎)



(1 階：図書室)

※地域や保護者も利用可能

3 小学校再編整備方針

3-2 再編校の施設整備

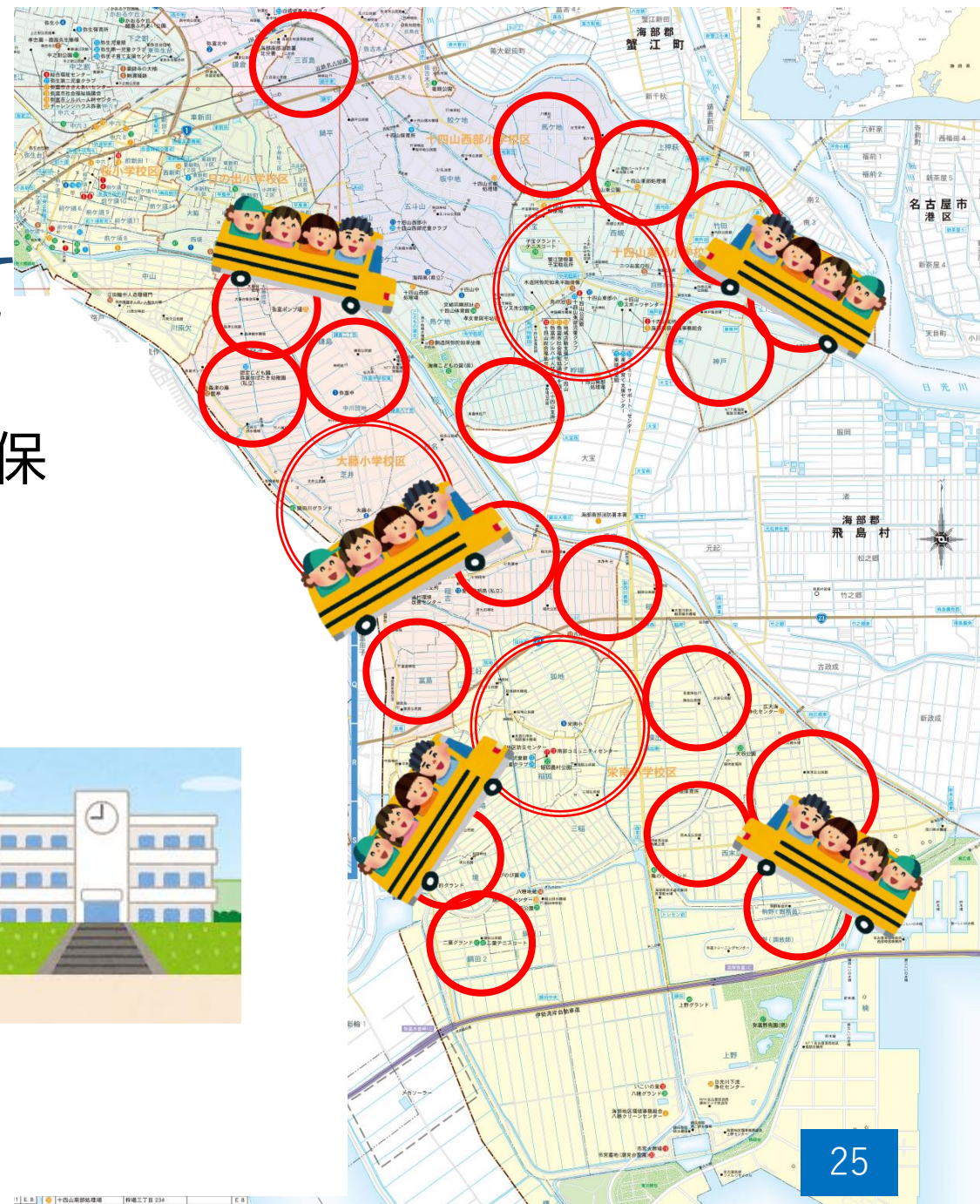
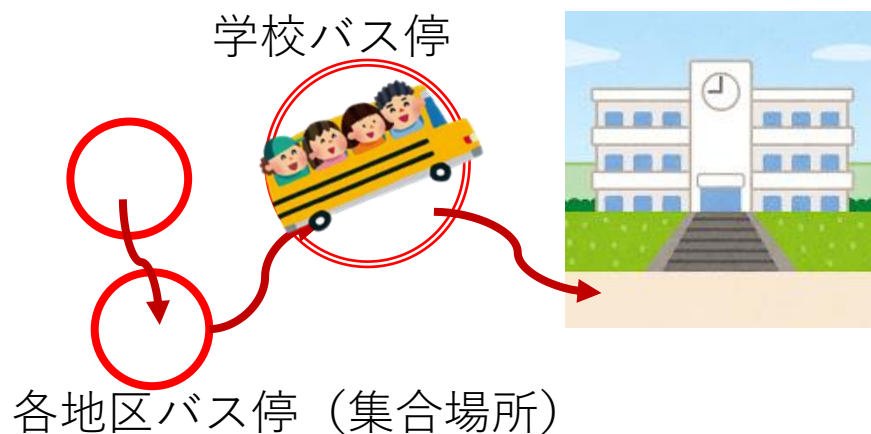
魅力的な再編校の実現に向けて

●安全安心な施設整備

- ・ 児童が避難する津波高潮避難場所の確保
- ・ 災害時の地域防災拠点
- ・ 安全な登下校のためスクールバス導入

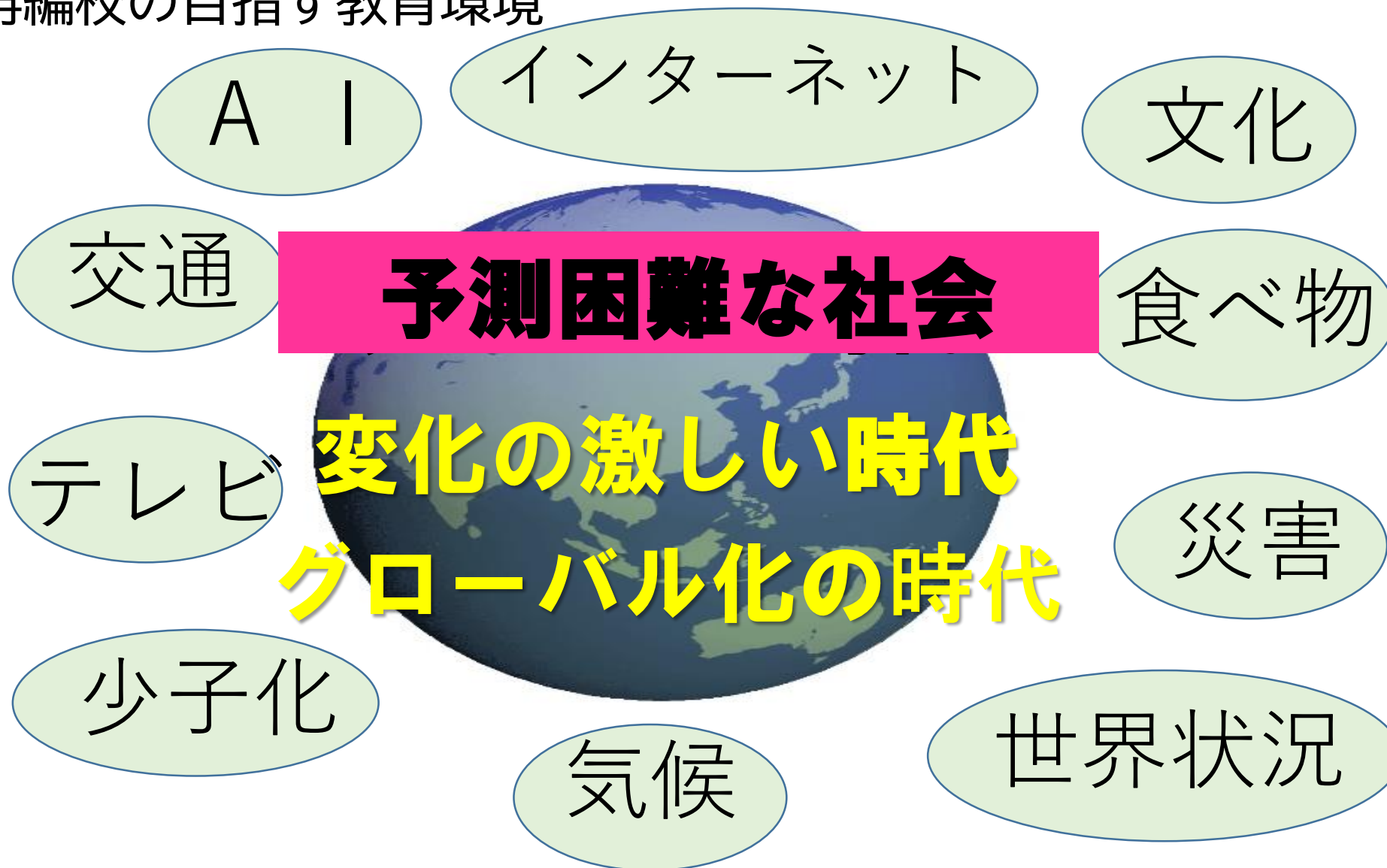


屋上避難場所



3 小学校再編整備方針

3-3 再編校の目指す教育環境



3 小学校再編整備方針

3-3 再編校の目指す教育環境

予測困難な社会をたくましく生き抜くための力



知識・技能

「生きる力」

思考力・判断力・
表現力等



学びに向かう力・人間力

3 小学校再編整備方針

3-3 再編校の目指す教育環境

これからの時代に求められる教育

そのためには…



多様な価値観をもった子どもが意見を出し合い、
折り合いをつけながら、
解決策を見出していくことが求められており、
一定の集団規模が必要となる。

3 小学校再編整備方針

3-3 再編校の目指す教育環境

これからの時代に求められる教育

【学級数・児童数が増えることでできること】
～児 童～

- ・ 友達が増え、多様性に触れることができる
- ・ クラス替えにより、新しい人間関係が構築できる



3 小学校再編整備方針

3-3 再編校の目指す教育環境

これからの時代に求められる教育

【学級数・児童数が増えることでできること】
～児 童～

- ・ 体育のボール競技や音楽の合唱、グループでの話し合いなど、集団で行う教育活動の範囲が広がり、内容も充実する。
- ・ 中学校進学時の負担(中1ギャップ)が抑えられる



3 小学校再編整備方針

3-3 再編校の目指す教育環境

これからの時代に求められる教育

【学級数・児童数が増えることでできること】
～学校運営～



- ・ 同学年の担任同士で相談しながら、授業の準備や学年行事等の準備ができる。
- ・ 教員体制が拡充することにより交換授業が可能となる。
教員それぞれの専門性を活かすことができる。
- ・ 教職員一人あたりの校務負担や行事に関わる負担が軽減できる。

3 小学校再編整備方針

3-3 再編校の目指す教育環境

これからの時代に求められる教育

【学級数・児童数が増えることでできること】
～学校運営～



教員間の連携の充実により、多くの目で
子どもたちを見守り、支援・指導ができる

3 小学校再編整備方針

3-3 再編校の目指す教育環境

これからの時代に求められる教育

【4小学校の特色を生かしたカリキュラムマネジメント】

地域に愛される学校

学区が広くなった強みを活かして

- ・大藤・栄南・十東・十西小学区のそれぞれの地域の良さ、地域の特色を学び、地域の人々との交流を行う機会を、生活科、社会科、総合的な学習等において計画し、実施する
- ・自身の地域を誇りに思うとともに、互いの地域を尊重する態度を育てていく

3 小学校再編整備方針

3-3 再編校の目指す教育環境

保育所・小学校保護者役員 意見交換会での声

地域の方との交流をずっと続けてほしい。
ふれあいを楽しみにしていた

「縦割り活動」は
とてもよいので、新しい小学校でも取り
組んでほしい

中学校につながるの
で、再編に直接関わら
ない学年も交流を
やってほしい



3 小学校再編整備方針

3-3 再編校の目指す教育環境 不安解消につながる取組

- ・ 交流授業や合同の学校行事の実施
- ・ スクールカウンセラーの配置拡充など教育相談体制の充実
- ・ 特別支援学級在籍児童への配慮・支援
- ・ 4校の教職員間の連携
- ・ 教職員配置の配慮 等



3 小学校再編整備方針

3-3 再編校の目指す教育環境 小学校再編の基本方針

令和10年4月

大藤・栄南・十四山東部・十四山西部小学校

4校それぞれの特色を活かしつつ、
魅力的な再編校の設立を目指します！



4 今後の検討事項

教育関係

- ・校名、校歌
- ・児童交流事業、PTA交流事業、式典関係（閉校・開校）
- ・通学路点検、スクールバス路線、停留所の位置

施設関係

- ・長寿命化改良工事・リフォーム工事、一部校舎新築
- ・ネットワーク整備工事
- ・バスターミナル整備工事

その他

- ・児童クラブ
- ・地域コミュニティ
- ・避難場所の確保



その他検討事項の方針

児童クラブについて

- ・大藤児童クラブ及び栄南児童クラブは、現状のままとします。
- ・十四山東部児童クラブを廃止し、十四山西部児童クラブに統合していきます。

地域コミュニティについて

- ・コミュニティ推進協議会については、現在のエリア及び枠組みで継続していきたいと考えています。

避難所及び避難場所について

- ・再編統合校に避難場所を整備するとともに、学校以外の公共施設も含めて、弥富市全域において、避難所及び避難場所の範囲を見直しております。

5 今後のスケジュール

令和5年度

- ・ 5月～9月 保護者・地域説明会、議会報告
- ・ 10月 パブリックコメント
- ・ 11月 整備方針決定、公表

令和6年度以降

- ・ 保護者・地域・学校による再編検討委員会等設置、交流授業、校名決定
- ・ 施設設計、施設工事
- ・ 閉校式・開校式

令和10年4月 開校



小規模小学校再編スケジュール案

1 基本方針

令和10年4月に大藤・栄南・十四山東部・十四山西部小学校の4校を再編し、十四山西部小学校の位置に校名を新たに新校を設置する

2 スケジュール

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
小中学校再編「小中学校未来構想」決定(2月) 統合先を示す小学校再編整備方針(案)策定(3月)	保護者・地域代表者等意見交換会開催(4-6月) 保護者・市民説明会開催(7-8月) パブリックコメント実施(9-10月) 定例教育委員会総合教育会議にて整備方針決定(11月) 事前調査(既存校舎耐力度・ボーリング調査)費補正予算上程(12月) 出張説明会(9月～)	再編委員会設置(4月) 交流事業実施 施設整備設計	施設整備工事(補正予算対応) 内覧会	条例改正	
開 校 (令和10年4月)					

- ・教育計画：学校教育目標・カリキュラム、交流事業
- ・学校運営：校名・校章・校歌、PTA、閉校・開校式
- ・通学関係：通学路、通学バス
- ・施設資料：設計、工事、備品、資料